

## 実態把握チェック表（ADHD）

	項 目	な い	時々ある	よくある	非常によくある	領域計
不注意	学校での勉強で、細かい所まで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしたりする					
	課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい					
	面と向かって話しかけられているのに、聞いていないように見える					
	指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げない					
	学習課題や活動を順序立てて行うことが難しい					
	集中して努力しなければならない課題（授業中の勉強や宿題）を避ける					
	学習課題や活動に必要な物をなくしてしまう					
	気が散りやすい					
	日々の活動で忘れっぽい					
多動性・衝動性	手足をそわそわ動かしたり、着席していてもじもじしたりする					
	授業中や座っているべき時に席を離れてしまう					
	きちんとしていなければならない時に、過度に走り回ったりよじ登ったりする					
	遊びや余暇活動におとなしく参加することが難しい					
	じっとしていない。または何かに駆り立てられるように活動する					
	過度にしゃべる					
	質問が終わらないうちに出し抜けて答えてしまう					
	順番を待つのが難しい					
	他の人がしていることをさえぎったり邪魔したりする					

※ 「ない」「時々ある」0点、「よくある」「非常によくある」1点で集計  
 少なくとも一つの領域の該当項目合計が6ポイント以上

## 実態把握チェック表（高機能自閉症）

項 目		いいえ	多少	はい	領域計
社会的な関係形成の困難さ	仲の良い友人がいない				
	他の子どもたちからいじめられることがある				
	友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない				
	友達のそばにいるが、一人で遊んでいる				
	球技やゲームをする時、仲間と協力してプレーすることが考えられない				
	いろいろなことを話す、その時の状況や相手の感情や立場を理解しない				
	共感性が乏しい				
言葉の発達の遅れ	独特な声で話すことがある				
	誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す (例：唇を鳴らす、咳払い、喉を鳴らす、叫ぶ)				
	言葉を組み合わせ、自分だけにしか分からないような造語を作る				
	含みのある言葉の本当の意味が分からず、表面的に言葉どおりに受け止めてしまう				
興味や関心が狭く特定なものにこだわる	会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある				
	特定の物に強いこだわりがあり、限定された興味だけに熱中する				
	意図的でなく、顔や体を動かすことがある				
	独特な表情をしていることがある				
	独特な目つきをすることがある				
	みんなから「〇〇博士」「〇〇教授」と思われている (例「カレンダー博士」)				
	他の子どもは興味がないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」を持っている				
	独特な姿勢をしていることがある				
	特定の分野の知識を蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんとは理解していない				
	とても得意なことがある一方で、極端に苦手なものがある				
その他	ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常活動ができなくなることもある				
	自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる				
	大人びている。ませている。				
	常識的な判断が難しいことがある				
	動作やジェスチャーがぎこちない				

※ 「いいえ」 0点、「多少」 1点、「はい」 2点 で集計 合計 22 ポイント以上

## 実態把握チェック表（LD）

項 目		な い	まれにある	時々ある	よくある	領域計
聞く	聞き間違いがある（「知った」を「行った」と聞き間違える）					
	聞きもらしがある					
	個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい					
	指示の理解が難しい					
	話し合いが難しい（話し合いの流れが理解できず、ついていけない）					
話す	適切な速さで話すことが難しい（たどたどしく話す。早口である。）					
	言葉につまったりする					
	単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする					
	思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい					
	内容をわかりやすく伝えることが難しい					
読む	初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える					
	文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする					
	音読が遅い					
	勝手読みがある（「いきました」を「いました」と読む）					
	文章の要点を正しく読み取るのが難しい					
書く	読みにくい字を書く（字の形や大きさが整っていない。まっすぐに書けない）					
	独特の筆順でかく					
	漢字の細かい部分を書き間違える					
	句読点が抜けたり、正しく打ったりすることができない					
	限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書けない					
計算する	学年相応の数の意味や表し方についての理解が難しい（三千四十七を300047や347と書く。分母の大きい数が値として大きいと思っている）					
	簡単な計算が暗算でできない					
	答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい（四則混合の計算や2つの立式を必要とする計算）					
	学年相応の文章題を解くのが難しい					
推論する	学年相応の量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい（長さやかさの比較）					
	学年相応の図形を描くことが難しい（丸やひし形などの図形の模写。見取り図や展開図）					
	事物の因果関係を理解することが難しい					
	目的に添って行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい					
	早合点や飛躍した考えをする					

※ 「ない」0点、「まれにある」1点、「時々ある」2点、「よくある」3点  
6つの領域の内、少なくともひとつの領域で該当項目合計が12ポイント以上